

RC・LC・JC・キワニス ニュース

里山の生態系を守れ 環境問題地域で議論

COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)が10月18日から愛知県で開催されるのを前に、国際ロータリー第2760地区の多くのクラブがCOP10開催支援と環境保全活動に取り組

名古屋大須RC 生物多様性会議

んでいる。名古屋大須RC(会長 岩崎征一・岩崎設計事務所代表取締役)は「里山問題を考える in 大須」をテーマに大須地域青少年生物多様性会議を開催した。

名古屋大須RCは地域振興活動の一環として大



「里山の大切さから川・海への繋がり」をテーマに行ったパネルディスカッション

住民ら200人参加 専門家も 討論会も

須商店街連盟と合同で「岩崎会長の話」とち、大須商店街と名古屋大須RCのメンバーと家族ら200人余が参加した。会議は名古屋中小企業 族ラ2000人余が参加した。大須RCのメンバーと家族ら2000人余が参加した。会議では最初に岩崎会「切さから川・海への繋がり」をテーマにパネルディスカッションを行った。この後、大沼氏をコーディネーターに庄内川流域の清掃活動に取り組んでいる土岐川・庄内川流域ネットワークの二宮久夫氏、愛知

開催した「大須地域青少年生物多様性会議」



成果を持ち帰って家庭や職場、友人たちと話し合い、環境問題に対する意識を高めてほしい」と述べ、環境問題に対する意識の高揚を呼びかけた。続いて里山問題をはじめとする環境保全活動と取り組んでいるCBDネットワークの大沼淳一氏が「生物多様性について」をテーマに基調講演を行い、COP(生物多様性条約締約国会議)の経緯と現在の活動状況、COP10の目標などを説明した。

森林の資源化が必要

名古屋大須RC 里山問題考える会議

市内の里山問題について考える会議が八日、中区大須二の名古屋中小企業福祉会館であり、約百人が参加した。写真。



市民ネット生命流城部「里山は、化石燃料の普及長代行の大沼淳一」及び放置されるようにさんが里山の適切なあり方について図や写真を採りながら説明した。まきや炭を作るために木が伐採されてきた「さん」は「持続可能な生

活のために、里山の森し、参加者らはメモを林をエネルギーとして取りながら熱心に話にすることが必要」と話 聞き入った。